

あたくし 与えるという おくり物

うけるよりも あたし 与えるほうが
さいわい 幸いで ある。
しんかいやくせいしょ し と はたら (新改訳聖書、使徒の働き 20:35)



もの
おくり物って、
わたしたちを とくべつ
特別な
きぶん
気分 に させてくれる、
すばらしい ものだよね。
みんな、プレゼントを
もらうのは 好きでしょ。
とく じぶん
特に、それが 自分の
すごく ほしかった
もの かくべつ
物だと、格別だよね。
だれかが じぶん
自分の ことを
おも じぶん
思ってくれていて、自分に
あ もの
合った おくり物を
してくれるって、
うれしい ことだもの。



せいしょ
聖書にはね、おくり物^{もの}を
もらったり、だれかに 手伝^{てつだ}って
もらうのは すてきな ことだけど、
もらう ことよりも、ほかの
ひと
人に あげる ことは、
もっと 大切^{たいせつ}な ことだって、
か
書かれているんだ。

わたしたちが ほかの
ひと
人たちの ことを かんが
え、
なに
何かを あげる ことを、
かみさま しゅくふく
神様は 祝福してくださるんだ。





自分の^{じぶん}ことや もらう^{もら}ことばかり^{ばかり} 考えていると、わがままに^{わがまま} なって、ほかの^{ほか} 人たちの^{ひと} ことや、
ほかの^{ほか} 人が^{ひと} 何を^{なに} 必要と^{ひつよう} しているのかなんて、考え^{かんが}なくなってしまう。自分の^{じぶん} ほしい^{ほしい} ものよりも
ほかの^{ほか} 人たちの^{ひと} ことを^{こと} 先に^{さき} 考える^{かんが} ことを、思いやり^{おも}って^{おも} いうんだ。思いやり^{おも}があるとは、ほかの^{ほか}
人たちの^{ひと} ことを^{こと} 考え^{かんが}、何を^{なに} してあげられるかを^か 考える^{かんが} っていう^{いう} ことだよ。つまり、自分^{じぶん}よりも
まず^{まず} ほかの^{ほか} 人の^{ひと} ことを^{こと} 考えて^{かんが} あげる^{あげる} っていう^{いう} ことだね。だけど、わたしたちが^{わたしたち} ほかの^{ほか} 人^{ひと}たちを^{たち}
助け^{たす}てあげると、わたしたちの^{わたしたち} ことは^{こと} 神様^{かみさま}が^が 助け^{たす}てくださる^{くださる} ことも^{ことも} よく^{よく} ある^{ある} って、知^しった^{った}?

ほかの^{ほか} 人^{ひと}たちに^{たち} 何か^{なに}を^を してあげるのは、神様^{かみさま}の^の 愛^{あい}を^を 伝^{つた}える、かんた^{かんた}んで^で すばらしい^{すばらしい} 方法^{ほうほう}なんだ。



やってみよう

だれかに ^{なに}何かを あげたら、自分も ^{じぶん}どんなに
^{しあわ}幸せな ^{きぶん}気分になれるか、^{ため}試してごらん。おうちの
^{ひと}人に ^{てつだ}手伝ってもらって、もう ^{つか}使っていないけど、
^{とも}友だちに あげれば ^{よろこ}喜んでもらえそうな おもちゃを
さがしてみよう。それを ^{つつ}包んで、「^{とくべつ}ぼくの 特別な
^{とも}友だちへ」って ^か書いた ^{ふだ}札を ^つ付けよう。自分の
^{なまえ}名前を ^か書くのも、わすれないでね。ささやかな
プレゼントだけど、あげる ^{きみ}ことで、君は
どんな ^{きぶん}気分になったかな？

文：カチューシャ・ジュスティ 絵：サビーン・リッチ デザイン：ステファン・ミーラー

出版：マイ・ワンダー・スタジオ Copyright © 2013 年、ファミリーインターナショナル “A Gift of Giving” --Japanese

<http://www.mywonderstudio.com/0-5/2013/9/9/bright-pebbles-a-gift-of-giving.html>

